



インフラを見る、知る、楽しむ ～世界最大級の地下河川“地下神殿”を訪ねて～

(一財)自治体国際化協会交流支援部経済交流課 主査 新野 梓 (福島県派遣)

“民間運営”のインフラ見学会

インフラそのものが地域固有の観光資源として注目され始めている中、首都圏外郭放水路（通称：地下神殿）は、首都圏を守る防災インフラという使命を越え、観光施設として新たな一歩を踏み出しています。

2016年3月に国が取りまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン」を契機に、地下神殿を管理する江戸川河川事務所や地元の春日部市等で構成される利活用協議会が設立され、2018年8月から、日本初となる民間運営（東武トップツアーズ株式会社）による社会実

験見学会を開



見学会を案内する「地下神殿コンシェルジュ」は、春日部市における雇用創出にもつながっている

IT活用で言葉の壁を越える

見学会のWebサイトは多言語対応しており、申し込みもオンラインで完結。海外の方も支障なく申し込むことができ、運営側の負担軽減にもなっています。また、英語と中国語に対応した音声ガイドアプリも提供しており、アメリカ出身の方は「(外国語を話せるガイドがいなくても) 不便は感じない」と話していました。限られたヒト・モノ・カネで多言語に対応するには、オンライン申請や音声ガイドアプリ等の活用が、今後必須になるのかもしれません。

海外の方の感想を、聴いてみた

見学会参加者（フィリピン出身等の学生）に話をうかがいました。「母国も台風の被害が多いので、この施設

を自分の目で実際に見たいと思った。10年以上前に当時の最先端技術で作られた大変価値ある施設だと感じた」と、日本のインフラ技術に強い関心を寄せていました。

インフラツーリズム全般については「興味がある人は多いと思うが、取り扱っているツアー商品が少なく、公式情報も日本語が多いので、探すのが難しい」とのこと。旅行先の決定にはFacebookやInstagram等の広告や口コミを参考にするという話もあり、訪日客を取り込むツールとして、やはりSNSは効果的と言えます。



海外の学生

広域連携を見据えて

春日部市環境経済部観光振興課では、見学会参加者に地下神殿以外の春日部も楽しんでもらおうと、東武トップツアーズ株式会社と連携して、イチゴ狩りツアー等の市内周遊観光プランの造成にも取り組んでいます。

同市が持つ既存の観光コンテンツ（クレヨンしんちゃん、藤の花、大風あげ祭り等）に加え、東武鉄道沿線の強みを活かし、同じ沿線の「日光」、「浅草」等の人気の観光地から訪日客をいかに呼び込んでいくか。春日部市の挑戦は始まったばかりです。

つづきは、Webで

クリアでは、インバウンド・海外販路開拓施策に関する優良事例について、自治体等に取材を行い、クリア・経済活動のWebサイトで紹介しています。この「地下神殿」を通じた、春日部市のインバウンドの取り組み事例について詳しく掲載しております。併せてご覧ください！